

	指定区分	名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日	摘要
有形文化財	えりも町	當世武大明神	えりも町庶野	佐々木廣志	平成14年3月20日	慶應2年(1866年)建立。請負人杉浦嘉七豊明、支配人放蔵の刻。北前船が風待ちをした入り江を望む段丘上にあることから、北前船の航海の安全と帆泉場所の反映を祈願して建立されたと考えられる。
	えりも町	目黒神社境内江戸時代建立の石碑	えりも町目黒	目黒神社	平成14年3月20日	石灯笼には、越後鬼舞伊吉丸などの刻。北前船の船主と請負人が、元治元年(1864年)に建立。社内にある狛犬は慶應2年(1866年)に建立され、番屋守中村惣太郎、宮石熊次郎の刻がある。江戸時代の場所請負の歴史を示す貴重な資料である。
	新ひだか町	エゾオオカミ(頭蓋骨)	新ひだか町静内古川町	新ひだか町教育委員会	平成18年3月31日	表面に皮膚が残存している。左後頭部に穿孔があり、中にキケ(削りかけ)が詰められている。全体に保存状態は良好。町内の民家にあった。絶滅したエゾオオカミであり、アイヌの伝統的儀礼に供されたものとしては国内唯一の資料である可能性が高い。
	新ひだか町	静内中野式土器	新ひだか町静内古川町	新ひだか町教育委員会	平成18年3月31日	ほぼ完形。昭和27年静内高校郷土史研究部によって中野台地A遺跡(現名称)で発掘されたもの。静内中野式の標式土器。
	(登録有形文化財)	北海道大学文学部二風谷研究室(旧マンロー邸)	平取町二風谷	国立大学法人北海道大学	平成12年4月28日	考古学・人類学者でもあった英国人医師N.G.マンロー博士の旧邸宅兼診療所。現在は北海道大学へ寄贈され、北方文化の研究等に活用されている。

## 記念物

史跡	国	シベチャリ川流域チャシ跡群及びアツベツチャシ跡	新ひだか町日高町	(新ひだか町)(日高町)	平成9年12月2日	寛文9年(1669年)のシャクシャインの戦いの誓として、重要な役割を果たしたといわれる新ひだか町シベチャリ川流域にある静内真歌のシベチャリチャシ跡、静内入船のホイナシリチャシ跡、同流域の静内目名のメナチャシ跡、静内農屋のオチリシチャシ跡、静内豊畑のルイオピラチャシ跡の5カ所と日高町厚別川上流にある正和のアツベツチャシ跡。
	北海道	門別富仁家盛土墳墓群	日高町富川	(日高町)	昭和38年12月24日	約2,000年前の墓で、直径1~1.5m、深さ1m前後の円形。墓穴の中に遺体は手足を折り曲げた形で葬られていた形跡がある。肉体はほとんど土にかかっているが、首飾りはシベリア産コハクといわれ、その経緯については興味深い。
	北海道	静内御殿山墳墓群	新ひだか町静内目名	新ひだか町	昭和38年12月24日	縄文後期、晩期の大規模な墳墓群で積石墳墓である。副葬品の一つ漆器の櫛は他に類例が少ない。
	類似町	類似山道	様似町(冬島〜幌満)	北海道(様似町)	昭和60年11月19日	寛政11年(1799年)北方警備のために開削された北海道道路史上初期の官営道路といわれ、全長約7kmの風光明媚な山道。
	えりも町	猿留山道と江戸時代建立石碑2体	北海道	(えりも町)	平成21年4月1日	寛政11年(1799年)蝦夷地周辺に頻繁に出発するようになったロシア・アメリカなどから、蝦夷地(北海道・北方四島など)を警備するため、情報伝達や物資運搬などが容易になるよう陸路の整備が幕府によって行われた北海道における最初の官製道路の一つ。猿留山道沼見峠にある石碑2体は、ともに場所請負人が建立したもの。
名勝	国	ピリカノカ襟裳岬(オンネエラム)	えりも町東洋、えりも岬	(えりも町)	平成22年8月5日	「ピリカノカ」とは、アイヌ語で「美しい形」の意味。アイヌ民族の物語・伝承の場、祈りの場、アイヌ語地名の意味をよく残している場などを文化財として保護する総称。襟裳岬は北海道内で7カ所指定されているうちの1つ。「オンネエラム」はアイヌ語で「大きな岬」の意味で、アイヌの人々にとってカムイ(神)の宿る神聖な場所であった。
	新ひだか町	蓬菜山	新ひだか町三石東蓬菜	(新ひだか町)	平成18年3月31日	海拔60mの超塩基性岩地帯は植物の生きた標本庫として知られており、「イワタケ」のほか、日高固有の植物が豊富に見られ、高等植物300種、コケ類100種が自生している。
	国	ピリカノカ幌尻岳(ポロシリ)	新冠町平取町	(新冠町)(平取町)	平成25年10月17日	ポロシリカムイ(ポロシリのカムイ)の居城があるカムイミシタラ(カムイの庭)として神聖視される日高山脈の最高峰。山上にはト(沼)があり、白熊や海豹、ヘビ、海鳥などの伝承がある。このトは、山頂付近の状況から七つ沼カールを指すと推定される。
	国	ピリカノカオキクルミのチャシ及びムイノカ	平取町	(平取町)	平成26年3月18日	人文神オキクルミが降臨し、居城を構えたと伝えられる岩山。かつてはオキクルミの聖地として崇められ、付近の住民が通行するときは遠慮しながら歩いたとも言われている。隣接する丘陵の崖面にはオキクルミの妹(妻)がカムイの世界へ帰るときに忘れて行ったとされるムイノカ(箕・形象)がある。
天然記念物	国	アポイ岳高山植物群落	様似町冬島	(北海道)	昭和27年3月29日	様似町からバスで10分、海拔810m日高山脈末端近くに位置しており、寒暖両性の高山植物の宝庫。ヒダカソウ、アポイツメクサ等はアポイ岳にのみ生育している。
天然記念物	国	幌満ゴヨウマツ自生地	様似町幌満	(北海道)	昭和18年8月24日	指定地域は335ヘクタール。樹齢150~200年のゴヨウマツを主とする針広混合林で、短枝に五葉葉生とすることからその名があり、その自生地は、檜山の厚沢部と様似町に限られる。
	国	沙流川源流原始林	日高町	国	昭和45年12月4日	トドマツ、エゾマツを主とし、ダケカンバを交えた本道における冷温帯上部の代表的原生林。エゾシカ、エゾライチョウ等の動物の生息地。
	国	ヒメチャマダラセリ	(主な生息地)北海道	—	昭和50年2月13日	セセリチョウ科の一種で、ヨーロッパ、シベリア、中国東北部に分布するが、わが国では、アポイ岳のみ隔離分布していることから遺存種と考えられ貴重である。昭和49年5月、北大生、鈴木茂氏によって発見された。
	北海道	新冠泥火山	新冠町高江	新冠町	昭和43年1月18日	昭和27年3月4日、十勝沖地震が発生し、注目される。大小8個の泥丘があり、その内大型の2個が天然記念物として指定されている。頂上部の直径50m、深さ1.5mのカルデラ状の凹地は湿原になっていて、まわりは軽種馬牧場になっている。この泥火山は台湾、南樺太にもある。
	平取町	芽生すざらん群生地	平取町芽生	平取町	平成8年4月1日	15ヘクタールの広さを有するスズランの自生地であり、保護すべき優れた自然遺産である。

## 文化的景観

重要文化的景観	国	アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観	平取町	(平取町)	平成19年7月26日	アイヌ文化の諸要素を現在に至るまでとどめながら、開拓期以降の農林業に伴う土地利用がその上に展開することによって、他文化の重層としての様相を示す極めて重要な文化的景観である。
---------	---	---------------------------	-----	-------	------------	--

## 埋蔵文化財包蔵地

	日高町	平取町	新冠町	新ひだか町	浦河町	様似町	えりも町	管内計
包蔵地数	132	127	43	153	58	28	67	608